

森田暁大兄「サハラを越えて」講演報告

期日、場所:2011年3月4日 夕刻 「ねむの木」山荘にて

例会141回(氷ノ山スキー)に先立ち、前日にスキー練習と森田さんのお話をお聞きする会を「合歓の木」山荘で開催いたしました。参加者は、田中信さん案内の、横山先生ご逝去後5ヶ月「痛手回復中」の先生の奥様(公子様)とお嬢さん(佳世様)、病み上がりにつき、奥様アテンドの小谷様ご夫妻、鉢伏でスキー練習を目指した現役(石丸・坂本君)、長期滞在のスキー名人の橋本昭様、いつものように「山小屋料理」を振舞い、精いっぱいのサービスをいただいた高田誠さんと壇阪さんでした。



左：熱弁される森田暁氏　右：ねむの木山荘の主 高田誠氏

講演終了時に金井良、緒方、井上達の諸兄も合流してくれました。総勢15人が、深夜まで大いに盛り上がりました。ストーブを囲み「ACKUのこと、スキーのこと、或は世界の事」話題は尽きませんでした。80歳近くの森田大兄以下21歳の現役諸君、年齢不詳ではありますが「ヤンチャな」女性陣が共に楽しめたのも、「ACK

Uと合歓の木」の伝統なればこそと"感謝、感謝"です。

翌日(2011年3月5日)はくっきり、雪に覆われた「氷ノ山」を拝みました(添付写真御覧下さい)。

森田大兄のお話は、当日は酒をいただきながら、しかもスキー練習の疲れもあり、「上の空」状態でお聞きしました、ご容赦下さい。そこで、もう一度、森田大兄発行の小冊子「サハラを越えて」を拝読いたしました。小生なりのサマリーを述べます。大変素晴らしい記録です。読みたい方は高田誠さんにリクエスト下さい。



森田氏講演の翌朝(3月5日)、晴れ渡った空の下、氷ノ山が新雪に包まれて輝いた。スキ - 登山パ - ティが元気に千本杉ヒュッテを目指して出発した。

(1) 御承知のように、森田さんは我がACKUの戦後最初のエポックであるパタゴニヤ・アレナレスの初登頂隊員(1958年; S33年)です(ニチボー勤務中)。ユニチカ(前身はニチボー)勤務中、1980年アフリカのナイジェリアの現地の帆布製造販売会社(初めはザリア紡績、拡大後84年からアレワ紡績)の社長として初の海外勤務をされました。



砂漠の旅を話される森田氏

(2) この探検記は、通算7年のナイジェリア勤務中に実現された、サハラ砂漠の数千kmに渡る3度の大旅行です。

- ◆ 第1回; 1986年9月14日から1週間、ニジェール・マリの旅 3,018km。
- ◆ 第2回; 1986年12月21日から翌1月3日、サハラ横断旅行 4,040km。
- ◆ 第3回; 1989年12月16日から27日、トンブクトーの旅、4,200km。

- (3) 最近こそ「パリ・ダカール」の猛烈な自動車耐久レースでサハラのイメージを映像で知る事が出来ますが、25年前に実行された事に感動を覚えました。この小冊子には「現地の人達、アフリカの歴史、地理気象、等々」淡々と述べられています。其れゆえ迫力満点です。“誠”さんの話によりますと、この記録冊子は、日本の奥様に送られた「愛の通信文」の一部のようです。
- (4) 未知の国で、人や土地や歴史にふれようとする行動こそ、まさしく「パイオニヤ」ワークです。森田大兄の根底に滾るACKU魂がこのような行動を生んだと感じた次第です。日頃寡黙な大先輩に「山男のバックボーン」を垣間見ました。
- (5) 近頃世界の経済成長の牽引役は BRICS(ブラジル、ロシア、インド、チャイナ)と言われております。最後の S は、複数の S ではなくて、サウスアフリカという学者もおられます。小生は、近頃の中近東の産油国や北アフリカの諸国の「民主化」に向う動乱から察するに、近い将来 10 年以内には、「アフリカの時代」が来るよう感じております。ソ連が崩壊した現在、残念ではありますが、世界は「経済成長至上主義」に向っております。バイタリティーの有るアフリカ諸国が発展した暁に、昔このような現実があったと、この「サハラを越えて」が歴史書としての評価を受けるだろうと思えてなりません。



女性人も加わって森田暁氏を囲んで団欒。「ねむの木」山荘 2011/3/4

(文責 ; 2011年3月、高田和三)